

Event Guide

イベントガイド第7号

本紙では、地球一周の船旅がより充実したものとなるよう、おすすめの船内企画や旅に関するコラムなどを掲載したり、乗船者の皆さまを紹介する紙面です。日々の船内生活の充実にお役立てください。

この号では8月3日から8月8日までの情報についてお伝えします。

8月3日 ありがとうの日

8月4日 PEACE & EARTH DAY ～We are the world～
フェアウェルセレモニー
最後の社交ダンスパーティー

8月5日 パッキングデイ
最後のバーベキュー

8月7日 横浜

8月8日 神戸

イベント紹介

●8月4日 PEACE&EARTH DAY～We are the world～

旅もうすぐ終わり。帰る前に、この旅での出会いや学びを振り返り、「平和」と「地球」のことについて考える一日にしてみませんか？

●8月4日 フェアウェルセレモニー

100日間にわたる船旅もいよいよクライマックス。長い航海を共に過ごした皆さまへの感謝を込めて、船長主催のフェアウェルセレモニーを開催いたします。思い出を振り返り、仲間との絆を深めるひととき。心温まる演出とともに、特別な夜をお楽しみください。

プログラムディレクター 鈴木隆之

今こそ、平和に繋がる旅を



「旅が平和をつくり、平和が旅を可能にする」

皆さんは、この言葉を聞いたことがありますか？これはジャパングレイスの理念であり、ピースボートグループ、そして私にとっての大切な合言葉です。

2025年2月、私たちのクルーズは中東情勢の影響でスエズ運河通航を断念し、アフリカ南端を回る航路に変更しました。今回の新航路により、船会社は航路を再計画し、旅行会社は乗客のビザやツアーの再手配を行いました。そして何より、急な変更にも関わらず現地で受け入れてくれた方々がいたからこそ、私たちは旅を続けることができました。

今回、訪問した南アフリカで、忘れられない出来事がありました。私たちはケープタウンに入港する際、ガザ侵攻反対を表すバナーを船体に掲げました。私が同行したツアーバスのガイドさんはムスリムの方で、ツアーの締めくくりに「皆さんがバナーを掲げて入港してくれた時、心が震え涙が止まりませんでした。世界中で苦しむムスリム同胞の代わりに、声を上げてくれたように感じました」と仰っていました。私たちが単なる客船ではなく、ピースボートとして、平和を掲げながら旅をすることの意義を再認識しました。

またそのツアーには、90代の女性とその娘さんが参加されていました。その娘さんからは「母が子どもの頃に読んだ本で喜望峰を航行する大変さや歴史を長年、深く心に刻みつけていました。そんな喜望峰。年齢を心配しましたが、皆さんや現地スタッフの温かいサポートで訪れられることが出来ました。」と感激されていました。

インターネットで世界中の情報が得ることが出来る現代でも、実際に足を運び現地の人々と直接触れ合うからこそ得られる感動や、その空気を肌で感じることで刺激を受け、新しい視点が生まれます。私はそういった積み重ねが、平和に繋がると考えています。

旅は市民レベルの「外交」です。世界情勢が不安定な今だからこそ、私たちピースボートグループは変わらず、この船旅を続けていきます。旅が平和をつくり続けることを信じて。

メディアディレクター 磯部弥一良

分断ではなく共生を、戦争ではなく平和を「TIME FOR PEACE」

「TIME FOR PEACE」プロジェクトでは、広島・長崎の被爆者、ウクライナでの戦時性暴力の被害者、イラクによる化学兵器の被害者、旧ユーゴスラビア紛争の被害者、アメリカやカザフスタンの核実験被害者、被爆バイオリンをはじめ、世界各地で戦争や、戦争が呼び起こす様々な暴力によって傷つけられてきた人たちの声に耳を傾けました。

また、東北アジアで平和教育に取り組む「NARPI」、中東などで紛争予防に取り組む「GPPAC」、核兵器の禁止と廃絶をめざす「ICAN」などのNGO(非政府組織)。さらに国連や外交の現場で活躍する方々が、「平和は私たち一人一人の行動でつくることができるんだ」というメッセージを、ご自身の活動を通じて伝えてくれました。

今回訪れたほとんど全ての寄港地で現地の方に会い、被爆証言やノーベル平和賞特別洋上展を案内するなどして、核兵器のない世界の実現を求めて訴えてきました。6月に核兵器保有国の一つであるフランスのル・アーブルに寄港した際、オンフルール市の市長が被爆証言会に参加しました。その証言に心動かされ、その後「自治体レベルで核兵器を拒否する」ことを表明する書面(ICANシティーアピール)に署名され、私たちににとって具体的な成果に繋がった嬉しいニュースでした。

また、7月20日には「戦争の被害を学び継承し、戦争をさせない世界をつくるために今こそ対話から行動へ」と謳った洋上国際会議が行われました。多くの参加者、GET先生、コミュニケーションコーディネーターたちとともに、「学びから対話を経て行動に繋げる」方法を考えました。沢山のご参加ありがとうございました。

私たちピースボートは、42年前「過去の戦争をみつめ未来の平和をつくる(Reflecting on the past, to shape a peaceful future)」を掲げて始めました。この精神で、これからも皆さんとともに、分断ではなく共生を、戦争ではなく平和を選択したいと思います。



TIME FOR PEACEプロジェクトディレクター 渡辺里香

参加者紹介



最後の参加者紹介は、横浜市から家族5名で参加されている高橋良弘(よしひろ)さん、礼(あや)さん、郁(いく)さん、和(のどか)さん、好(このみ)さん。

写真(一番左)良弘さん、(隣)郁さん、(中央)好さん、(右上)礼さん、(右下)和さん

〈乗船のきっかけは?〉

家族という時間を増やしたいという思いから、4年ほど前から家族で旅をするようになり、今までニュージーランドや、東北地方、北海道のニセコへ行きました。今クルーズに乗船しようと思ったきっかけは、水先案内人の四角大輔さんが乗船することを知ったこと。また、娘の学校の先生も「行ってらっしゃい」と背中を押してくれたので乗船を決めました。

〈3か月間、乗船した感想を聞かせてください?〉

(良弘さん)船内の内装がホテルのようで、とても快適ですね。一時下船してへとへとで帰ってきても、違う港で「家」が待っていて帰れるというのが面白いです。

(郁さん)ジャグリングやバルーンアート体験など、普段できないことが気軽に体験できて良かったです。

〈旅をしている中で感じることはありますか?〉

(良弘さん)旅行中は日常生活では出会えないハプニングが多いですが、家族で乗り越えることでより団結力がついたと思います。

(礼さん)娘がフォローしてくれる側に回ってくれることもあり、子どもの成長を感じることも出来ます。

〈印象に残った寄港地がありますか?〉

(良弘さん)ポートエリザベスのサファリです。自然の中で生きる野生動物の姿が悠然としてカッコよかったです。南アフリカの自然の雄大さを感じたり、ツアーの人が課題を話してくれたことが印象的でしたね。

〈クルーズでの家族みんなの1番の思い出は?〉

(礼さん)娘の和(のどか)が「手裏剣ツリーを作る」自主企画をしたことです。自主企画の申請や当日の説明なども自分でして、姉の郁(いく)が分からない人に個別に教えたり、夫が撮影をしたり、家族全体でサポートして出来たことが思い出です。教えてもらえて嬉しいと言ってくれる人もいました。

(和さん)企画は緊張したけど楽しかったです。

〈最後にメッセージをどうぞ〉

温かく見守っていただき、ありがとうございました。残りわずかですが、ぜひお話ししましょう。